

(様式第4号)

介護保険運営協議会 会議概要

- 1 審議会名 上田市介護保険運営協議会
- 2 日 時 平成28年4月27日 午後1時15分から午後2時30分まで
- 3 会 場 上田駅前ビルパレオ2階会議室
- 4 出席者 佐藤委員、山野井委員、小林委員、越田委員、橋詰委員、友松委員、市川委員、
武捨委員、田中委員、大草委員、山浦委員、齊藤委員、関委員
- 5 市側出席者 櫻田福祉部長、酒井高齢者介護課長、橋詰介護保険担当係長、小須田介護保険
担当係長、小川地域包括ケア推進係長、馬場高齢者支援担当係長、竹内高齢者
支援担当係長、久保田高齢者支援担当係長、宮沢高齢者支援担当係長、上田高
齢者支援担当係長、下城高齢者支援担当係長
- 6 公開・非公開等の別 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
- 7 傍聴者 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成28年5月9日

協議事項等

- 1 開 会 (高齢者介護課長)
- 2 人事通知書の交付
- 3 あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 上田市介護保険運営協議会及び委員の職務について
- 6 会長及び副会長の選出について
会長 佐藤委員 副会長 越田委員
- 7 協議事項 (佐藤会長の進行)
(1) 地域密着型サービス事業者の指定について
(2) その他
- 8 その他
- 9 閉会

審議概要

- (1) 地域密着型サービス事業者の指定について
審査状況などをもとに審査したため、非公開。
- (2) その他について

(委員) 第6期の事業計画の中で、地域支援事業、モデル事業をいくつか取り組んでいただいていることありがたく思っています。その中で二つほどお聞きしたいのですが、先日社会福祉法人の特養を訪問しましたら、地域のボランティアさんがオムツたたまのボランティアで7,8名いらしていました。10時30分に終わって11時から、その施設に4台くらいある運動器があるんです。お聞きすると「私たちボランティアに来たものは午前中だけ使わせてもらっています」という回答でした。これは27年度からやっている運動器の機能向上教室と関係あるんでしょうかお聞きしたいです。

今シルバー人材センターに委託している訪問のA型のワンコインのサービス。買物、掃除、など、その概略についてお聞きしたいと思います。

そして、もう一点が地域リハの活動推進事業、神科地域のモデル事業の一つだと思いますけど、各地で実施されているかと思うのですが、今現在どのような状況でしょうか。

それからミニデイサービス、今後の検討課題ということですが、私たちの地域で検討していることとして健康推進課も関係しているかと思うんですが、高齢者の社会参加ですね。住民主体の自治会でのコミュニティカフェを作ったらどうかなんて意見も出ております。介護保険は全然関係ありません。市のなかでも別の組織になるかと思いますが、色々な主体がかかわっている点で、元気高齢者が関わってくる。そんなことも考えている段階です。お答えできる範囲でお願いできればと思います。

(事務局) 機械が置いてあるというのは、運動器機能向上の委託をしている事業所ではないかと思いません。運動器機能向上というのは2次予防事業という平成18年度からスタートしている事業として、要支援に近い方を拾い出して行う事業ということで、今まで市町村で進めてきたんですが、国の目標は高齢者人口5%としている、やりたいという人が参加するのではなくて、危険性の高い人を拾い出して事業を進めていくことで、介護予防を進めようと考えていたのが平成18年度の国の方針で、上田市もそれに取り組んできたということですが、全国平均で0.7%しかいかなかったということであまり効果がなかった。ちなみに上田市では1.7%近く平均より多かったわけですが、平成27年度の法改正では、1次予防2次予防というのは基本的にはやめようということで、それに伴って総合事業という形、それも含めて一般介護予防事業として地域全体で介護予防を進めて行こうということになりました。国の指摘している点もその通りというところもありますので、私どもとしても、総合事業で運動器機能向上に代わるミニデイサービスを進めているところであります。上田市のミニデイサービスの特徴なんですが、介護保険事業では、要介護の方の中に、要支援の方も入れて実施している。要介護と要支援の方が一緒に、言うなれば認知症の方や、車いすの方がいる中で要支援の方が一緒に入ってやっているという状況で介護予防が中々進まなかったというのも事実だと思うんですが、上田市ではミニデイについては総合事業対象者のみ、分かりやすく言うと要支援とそれに近い方だけを対象にしたデイサービスを進めて行こうと今努力しています。そうなりますと、同じようなレベルの方、介護予防をやっていききたいという方が集めますので、そういった形のミニデイサービスということで、運動器の機能向上を使って、介護予防重点型のミニデイサービスを現在展開しています。

それともう一点、ミニデイサービスについては要支援の方の希望としては、「私は体力落ちてきたので運動したい」ということと、もう一点は閉じこもりがちになってきているので、集まれるところに行きたいというのがあります。しかし、集まれるところに行ったら、認知症の方ばかりいるところでは、なかなか介護予防が進まないですし、本人の希望にも沿わないということですので、今年準備しているのが生活支援型のミニデイサービスということで、必ずしも運動中心じゃなくても、レクリエーションや軽体操だとか、アクティビティ・手作業を進めながら介護予防を進めて行く。そのようなミニデイサービスを現在検討しています。

ワンコインサービスにつきましては、総合事業は要支援者やそれに近い方が基本的な対象です。一般の高齢者が、全て生活支援型の今シルバーで進めている事業の対象になるということではございませんので、あくまでも要支援の方、日常生活は自立しているけど、何らかの援助がないと生活ができない高齢者という意味あいですので、一般的に、例えば庭の草むしりをしていただきたいというようなものは、総合事業の対象になりません。シルバーの方でやってい

る事業だとか、ワンコインはもっと簡単な生活支援サービス、詳しいサービスメニューまでは分かりませんが例えば「電球の取り換え」とか簡単なものはワンコインサービスに入っているのではないかと思います。

それから住民主体ということについて、そういったことに取り組んだらよいではないかということは、それは総合事業の究極の目的です。デイサービスが地域で支えられるようにすぐになるかと言ったら、「やってください」と言うことができることではないので、それをどうやってそういうふうにしていくかを今準備しております、一つはその地域の法人、社会福祉法人等がありますので、地域の意欲のある人を集い、それを団体が進めて行く。そのようなことをイメージして、とりあえずシルバーでやっていったのですが、次に来るのが地域のそういった集まり、誰かが集める形で、請求も含めて出来なければいけませんので、バックアップは必要ではないかなと考えています。

それから住民主体のデイサービスにつきましても、あくまでも総合事業対象者ですので、何らか体力の弱い人が参加します。そういったことを事業所のように住民がすぐに出来るわけではありませんので、こういった仕掛けをするかということで、今年度からサロンの立ち上げ、地域住民が定期的に来る場合について設立の準備資金を出すという事業に取り組んでまいります。そういう形で住民が集まると、その先に段々つながっていくんだろうと思いますので、委員のおっしゃられたような住民主体の通所サービスはそういったところから生まれてくるんじゃないかと現在のところでは考えています。

それから地域リハビリテーションにつきましても、人が集まるということが非常に大事でして、住民主体の介護予防をいかに進めていくかということで、高齢者の人口 46000 人の 10%の方が、定期的に、主体的に、継続的に介護予防活動に取り組んでいただけるために地域リハビリテーション活動支援事業というのをスタートしました。昨年度モデルでやった実績で 5 か所ではじめて、21 か所までできています。今年度に入りましてどんどん希望が出てきていまして、そういったことをアピールするために、映像DVDを使って地域住民の方にお配りして、こういった取り組みを我々は支援していきますよという形で進めていきたいと思っています。最終的には高齢者の一割の方が、活動に継続的に参加できるように考えていますのでよろしく願います。

(会長) ほかに何かありますか。それでは、本日の協議はこれで終了します。貴重なご意見ありがとうございました。